

8月24日（月）学びの多様化学校を訪問しました！

対談テーマ

多様な学びの確保をめざして

「学びの多様化学校」とは、不登校児童生徒一人ひとり合わせた柔軟な教育課程を編成する学校です。今回は、令和8年4月に滋賀県で初めて設置された「学びの多様化学校」を訪問し、だれもが自分らしさを大切にしながら学ぶために、大切なことは何か、そして課題について話し合いました。

訪問した教育委員

土井 真一 委員、窪田 知子 委員、野村 早苗 委員、塚本 晃弘 委員、森 和之 委員

校内見学



校内見学では、子どもたちが普段どんな学習に取り組んでいるのかを聞かせていただきました。学びの多様化学校には生徒が考えた「よつば」という通称があることもお話しいただきました。

意見交換より

委員：開校して間もないですが、入学してきた子ども達の変化を感じておられたら、その背景を教えてください。

学校：4月当初は子どもとの距離を感じました。その後、少しずつですが、表情が柔らかくなっていき、最近では自分のことを話してくれる子どもが増えました。その背景として、この場所が「自分の思いを出していい場所」ということを実感できるようになったからだと考えます。ここでは「どうしたい？」という子ども一人ひとりの思いや考えを大切にしたいと考えています。

委員：開校式のあいさつの中に「自分らしい学び方を見つけていきたい。」と生徒が話しておられることが印象的でした。事前の体験でそのような気持ちを実感したからこそ、この言葉が出てきたのだと思いました。定員についてはどのように捉えておられますか。

学校：子どもによって安心できる距離感は違います。この施設の広さであれば、現在の定員がちょうどよい距離感を保てる人数だと感じています。

委員：カリキュラムを運用する中でどのようなことが課題だと感じますか。

学校：毎日登校する子どもと自分のペースで登校する子どもとでは、対応が変わります。自宅でも学習できるようオンライン学習を進める話もありますが、時間を捻出できないのが課題です。職員同士で「やってみよう」という気持ちを大切に手探りで取り組んでいます。

委員：不登校の原因はどのように捉えておられますか。

市教委：令和7年度の調査では、学校に行く意味が感じられないという回答が多く見られました。ただ、小学校の学習内容が定着していないことが原因で、不登校につながるケースは多く見られます。低学年から学力を定着させることが不登校防止につながると考えます。

学 校:子どもたちを支援していくためには、一人ひとりの育ちについて把握する必要があります。年度初めに保護者のみなさまと個別に丁寧にお話する機会を設定しています。保護者の皆様のお話を聞いていると、様々な背景が複合化していると感じます。きっかけは何かあったのかかもしれませんが、不登校になる原因には色々なことが絡み合っています。



学 校:保護者の方もなぜこのようになったのか分からず悩んでおられる方は多いです。そこに寄り添っていくのも学びの多様化学校の職員の大切な仕事です。

委 員:今後施設の数を増やすなど、どのような展開を考えておられますか。

市教委:まずは新設した学校を3年間見届けることが第一です。

学 校:多様化学校となると転校するケースもあるので、ハードルが高く感じる子どももいると思います。校内外教育支援センター等、様々な学びの場があり、子ども達を選ぶことができるとよいと思います。

委 員:先生方に負担はありませんか。また、今後どのようにスキルアップしていきたいと考えていますか。

学 校:研修等に積極的に参加して自分たちのスキルを高めていきたいと思っています。学校内の SC や SSW による研修も開催され積極的に参加しています。